

西淀川区区政会議

令和8年度

多文化共生推進施策について

大阪市西淀川区役所
令和8年3月4日



令和7年度 多文化共生にかか る グループ討議の振り返り

- ①第1回グループ討議「西淀川区のめざす多文化共生社会」について
- ②第2回グループ討議「多文化共生に向けた西淀川区の今後の課題と戦略」
- ③第3回グループ討議「多文化共生のさらなる発展を目指した相互交流促進」について



1-1. 第1回グループ討議「西淀川区のめざす多文化共生社会」について



委員の皆様から頂戴した主なご意見・ご提案



どの国の人も「西淀川区民である」というアイデンティティが共有されているのが「多文化が共生しているまち」だと思う。一方で、日本語を全く話せない外国人と日本人をつなぐ人がいないのが問題点だと思う。うまくコミュニケーションがとれず、外国人に対する偏見（例えば怖いイメージ）を払拭できていないと思う。



言葉の壁だけでなく、食など文化の違いも障壁となっていると思う。一緒に綱引きをしたりごはんを食べたりして、交流する機会をつくってはどうかと思う。



外国の方のマナーは良くなってきたと感じている。一方で、言葉の壁やルールの違いが障壁になっていると思う。外国の方にどのように寄り添うか考える必要があると思う。



見た目も文化も多彩で子どもたちが交流していること、外国人が地域イベントに企画段階から参加し、日本の祭りに限らず何らかのイベントがあること、他人への興味を持っていることが「多文化が共生しているまち」のイメージだと思う。言葉の壁により、ごみの問題や介護の問題が生じると思う。



1-2. 第2回グループ討議「多文化共生に向けた西淀川区の今後の課題と戦略」について



委員の皆様から頂戴した主なご意見・ご提案



翻訳ツールを使える人を増やすとともに、地域で自由に使える翻訳ツールの貸出があれば良いのではないかと思います。また、コミュニケーションボードの作成を目的とした交流イベントを実施してはどうかと思う。



学校で子どもたちを通じて親同士知り合うのが良いと思う。



勇気を持って外国人に挨拶したり話しかけたりして試みるのが大事だと思う。イベント情報を自分たちから取りに行き参加することで、国籍を超えて共通のゴールを持つことが重要だと思う。



普段の生活や職場で共有されてきた、生活上のルールや仕事の進め方における「前提」を丁寧に伝え、ケアする必要があると思う。



最初は外国人の中で「ハブになる人」を通じてつながることを、中長期的には「ハブになる人」がいなくてもつながっている状態をめざしてはどうかと思う。「ここに来れば誰かとつながれる」と思える場所があればと思う。



1-3. 第3回グループ討議「多文化共生のさらなる発展を目指した相互交流促進」について



委員の皆様から頂戴した主なご意見・ご提案



災害の情報や医療の情報について、ピクトグラムのような非言語での情報発信の仕方も大事ではないかと思う。



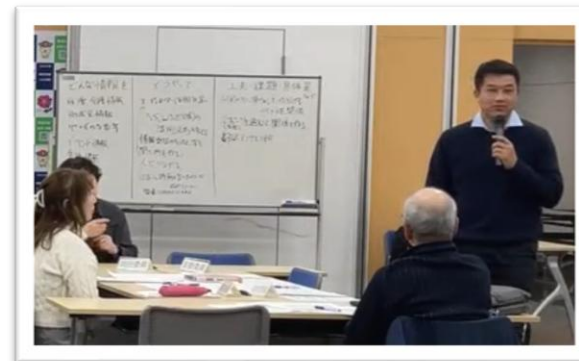
例えばスポーツ大会のような、言葉がなくても伝わりやすく外国人の方にも参加していただけるイベントを開催してはどうかと思う。



困っていることを話せる機会や関係性がないために不安に繋がってしまうということがあると思う。コミュニティの中心者の方、同じ文化の方から伝えていただくことがまず安心に繋がるのではないかと思う。



区内に全戸配布されている広報紙「きらり☆にしよど」を活かして、QRコードで翻訳版を読めるようにし、外国人の方も容易に区政情報を得られるようにしてはどうかと思う。



令和8年度の多文化共生推進施策 について（具体的な取組み内容）

- ▶ 区政会議でいただいたご意見・ご提案を具体的な形にして前に進めていきます。



2-1. 令和8年度の多文化共生推進施策について

ご意見・ご提案

① (外国につながる方等のある住民に対して) 災害の情報や医療の情報について、ピクトグラムのような非言語での情報発信の仕方も大事ではないかと思う。



ピクトグラムのイメージ

これまでの取組実績

- ①日本語が苦手な方等にも分かりやすく情報を伝えるため、防災マップや避難所等でピクトグラムやイラストによる案内を実施済。
- ②大阪市に住む外国につながる市民に知っていただきたい6つのルールをまとめた「6 Key Rules in Osaka City」を広報紙等で周知。



防災マップ



6 Key Rules in Osaka City

令和8年度の取組施策

- ①区役所や附設会館において、ピクトグラムやイラストによる分かりやすい案内や情報発信を検討。
- ②引き続き、防災マップや避難所等におけるピクトグラム表示やイラストによる案内を充実。



2-2. 令和8年度の多文化共生推進施策について

ご意見・ご提案

例えばスポーツ大会のような、言葉がなくても伝わりやすく外国人の方にも参加していただけるイベントを開催してはどうかと思う。

②



これまでの取組実績

- ①外国につながる方も対象とする剣道体験会を開催（令和7年7月）
- ②大阪・関西万博ペルーナショナルデーにおいて公式式典やパレードの参加（令和7年8月）
- ③出来島にてきらきら☆フェスティバル開催（令和7年10月）
- ④区民まつりにおいてネパール民踊ステージ（令和7年11月）
- ⑤ペルーと日本を中心とした国際交流イベントを阪急グランドビルで開催（令和7年12月）
- ⑥区民駅伝大会に日本語学校の学生も参加（令和8年2月）
- ⑦多文化共生交流フットサル大会（令和8年3月8日(日)に試行的に開催予定）

令和8年度の取組施策

- ①大阪・関西万博のレガシーとして、万博国際交流プログラムをきっかけとした国際交流の取組を継続（きらきら☆フェスティバルでの連携など）
- ②フットサル大会や区民駅伝大会などスポーツイベントにおいて外国につながる方も参加者を増やすほか、音楽や食文化を通じた交流を促進。
- ③区民まつりにおいて外国人にブース出展をしてもらう。



区民剣道体験会の様子



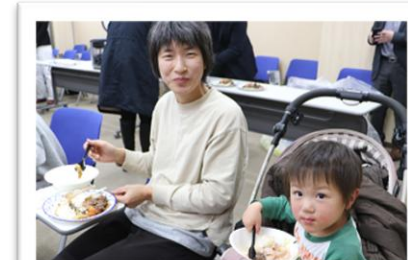
出来島盆踊り



きら☆きらフェスティバル2025



「ペルー共和国を知ろう!!」イベント



2-3. 令和8年度の多文化共生推進施策について

ご意見・ご提案

① 海外の方が増えてきているものの、「日本語が話せないから」という理由で町会に加入しない場合が多い。また、海外の方同士で集まりコミュニティをつくっている場合があるため、コミュニティ同士をつないでくれる方が必要だと思う。

② (外国につながる人の生活に必要な情報の入手について) 困っていることを話せる機会や関係性がないために不安に繋がってしまうということがあると思う。コミュニティの中心者の方、同じ文化の方から口コミで伝えていただくことがまず安心に繋がるのではないかと思う。

これまでの取組実績

国籍毎に、外国人コミュニティの中心にいるキーパーソンをリストアップし、接触中。



令和8年度の取組施策

外国人コミュニティの中心にいるキーパーソンを通じて、必要な情報を区役所から効果的に発信・伝達することが重要であると認識。

そこで、多文化共生に関するワークショップを複数回にわたり開催し、外国人コミュニティのリーダーが隔たりなく集まり意見交換・情報共有できるプラットフォームを形成する取組の実施を検討。



2-4. 令和8年度の多文化共生推進施策について

ご意見・ご提案

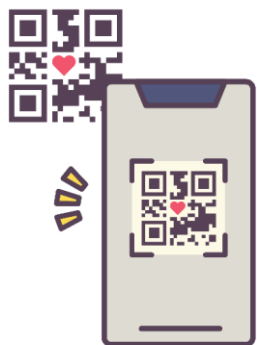
④ 区内に全戸配布されている広報紙「きらり☆にしよど」を活かして、QRコードで翻訳版を読めるようにし、外国人の方も容易に区政情報を得られるようにしてはどうかと思う。

これまでの取組実績

広報紙3月号欄外（オビ）記事に、広報紙オープンデータへ誘導するQRコードを掲載。ブラウザの翻訳機能にて、それぞれの言語に変換いただくことを想定。

令和8年度の実施策

表紙面など広報紙のより分かりやすい箇所に、QRコードを掲載するとともに、日本語から母国語への変換方法に関する分かりやすい説明・案内も併せて掲載する。



▶ 西淀川区広報紙「きらり☆にしよど」オープンデータを公開中
Open data for the Nishiyodogawa Ward newsletter 'Kirari☆Nishiyodo' is now available



2-5. 令和8年度の多文化共生推進施策について

ご意見・ご提案

⑤ 区役所の1階のカウンターで、「私、英語できます」みたいなバッジを付けた案内役を配置してはどうかと思う。行政の手続きは専門用語が多いため全部できるとは思わないが、できないよりはましだと思う。また、通訳が難しいならポケットークを活用してはどうか。

これまでの取組実績

- ①多言語に対応できる「ポケットーク」や「yyシステム」などの機器やアプリを一部窓口を導入済。
- ②総合案内については多言語対応の取組が進んでいない。

令和8年度の取組施策

- ①日本語に不慣れな外国人、聴覚障がいのある方など誰もが安心してコミュニケーションをとれるよう、話した言葉がリアルタイムでスクリーンに翻訳・文字表示される字幕表示システム「Cotopat」を、区役所の一部窓口新たに設置予定。
- ②総合案内においても、リアルタイムで画面に翻訳・文字表示されるタブレット端末の積極的な配置を検討。
- ③区役所内の案内表示に、外国語での対応可能な窓口を表示。

